研究に関する情報公開

＜研究課題名＞

単純 CT を使用したアレルギー性鼻炎の新たな補助診断法の確立

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院　耳鼻咽喉・頭頸部外科

（研究責任者）大島　猛史

＜研究期間＞

承認日　～　令和 10（2028）年 8 月 31 日

＜対象となる方＞

西暦 2014 年 4 月 1 日～西暦 2023 年 7 月 30 日の期間に耳鼻咽喉・頭頸部外科のアレルギー専門外来および副鼻腔専門外来を受診された方

＜研究の目的＞

下鼻甲介容量や鼻粘膜血流量はアレルギー性鼻炎（allergic rhinitis；以下AR）を始めとする炎症性疾患によって動的に変化します。鼻粘膜血流量は局所での炎症程度を反映するため、その評価は病勢を推定し、治療方針を決定するうえで大変有意義です。

鼻副鼻腔領域での単純Computed Tomography(以下CT)検査は、粘膜肥厚の程度や骨・腫瘍性病変の有無の確認に有用ですが、鼻粘膜や下鼻甲介内部の性状を評価する目的では活用されていません。CTには組織性状によって規定される絶対値（CT値）という値が存在し、血流が豊富な組織ではCT値が高くなると予想されます。しかし、撮影条件によってCT値は影響を受けるため、そのまま使用して他の症例でのCT値と比較することはできません。複数症例での比較検討を可能にするために、中脳のCT値を基準とした相対CT値を定義しました。相対CT値の測定がAR症例の補助診断法となりうるか、あるいはARの病勢を推測するうえで相対CT値の測定が有用かどうかを検討することが目的です。

＜研究の方法＞

2014 年 4 月から 2023 年 7 月までに日本大学医学部附属板橋病院耳鼻咽喉・頭頸部外科のアレルギー専門外来あるいは副鼻腔専門外来を受診した患者様を対象とします。下鼻甲介は左右別として計測し、各下鼻甲介粘膜下組織（前方、中間、後方）から少なくとも 3 か所 ROI を選択します。ROI とは、Region of Interest の略語で関心領域などと訳されます。画像処理やコンピュータビジョンにおいて、処理を行いたい物体や図形などの領域範囲のことを意味します。各 ROI における CT 値を測定し、中脳 CT 値に対する下鼻甲介相対 CT 値を計算します。AR 症例では慢性炎症を反映し、非 AR 症例と比較して相対 CT 値が高値となっているかどうかを検討します。さらに、AR 症例での相対 CT 値は、AR の病型（通年性あるいは季節性）、年齢、性別、非特異的 IgE 値、血中好酸球数などの因子によって影響を受けるかどうかを多変量解析で検討します。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

診療記録や採血、CT 画像等の検査データを利用します。電子カルテ内に保存されている記録を板橋病院の規定に則り取得します。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

耳鼻咽喉・頭頸部外科　　氏名：小池　直人

電話：03-3972-8111　　内線：（PHS）8290